

図書館職員による館内サイン改善の取り組み：
Library with Design and Ideas (特集 トピックス
で追う図書館とその周辺)

| | |
|-----|---|
| 著者 | 吉野 知義 |
| 雑誌名 | 図書館雑誌 |
| 巻 | 112 |
| 号 | 2 |
| ページ | 90-91 |
| 発行年 | 2018-02 |
| URL | http://id.nii.ac.jp/1092/00001443/ |



特集◆トピックスで追う図書館とその周辺



図書館職員による館内サイン改善の取り組み

— Library with Design and Ideas —

吉野知義

「運用で困っていることはあるけど、どうせやるならデザインもかっこよく、アイデアを出し合って、負担が少なくなるように工夫しよう」

これが、当館での館内サインや業務改善のきっかけでした。

●改善に取り組んでみよう

2008年に新図書館として開館した本学図書館が入る建物（7号館）の外観はガラス張りで、館内は仕切りの無いワンフロアで吹き抜けもあり開放的な学習空間を構成しています。開館の翌年には、2009年度のグッドデザイン賞を受賞するなどのご評価をいただいています。

しかし、実際の運用では建物のデザインと噛み合わないことも発生しましたが、それ以外にも例えばサインやポスターなどがうまく機能しないで雑多な雰囲気となった上に利用者に伝わりにくくなったり、あるいは業務が複雑化して職員の負担が増えていたりしていました。これは多くの図書館でも実感されていることではないかと思います。

そこで、これらの課題を打開し、さらにデザイン性を維持しながら図書館職員が望むような運用を実現するために2012年から館内のサインやポスターなどの改善に着手してきました。

●ポリシーを決めよう

はじめに取り組んだのは全体的な「改善」に向かっての基本的なポリシーを設定することでした。目的を明確にして、職員がどのような考え方で進めていくのかを三つにまとめました。

【運用ポリシー】

- ・利用者の快適性を優先
- ・Noと言わない（できるだけ）
- ・職員の負担はできるだけ軽減

この運用ポリシーは、館内サインの改善だけではなく、図書館業務のすべてに渡る考え方として位置付けました。それによって、単に利用者の快適性を求めるに留まらず、図書館で働く職員の

業務を効率化する目線を併せ持つことで、業務負担をも軽減するアイデアが生まれるようになりました。

次に、具体的なサインやポスターなどを制作する際の指針となるデザインポリシーを設けました。

【デザインポリシー】

- ・見てわかる・伝わる工夫：「ピクトグラムを活用」「文字は最小限」
- ・文字は黒をベースに最大3色、意味で色分け：許可＝緑、注意＝黄色、禁止＝赤
- ・使うフォントを統一：日本語＝源真ゴシック・源柔ゴシック、英数字＝Calibri

ピクトグラムは「絵文字」とも呼ばれ、物や動作、概念などを単純化した図形です。JIS規格になっている非常口のマークなどの案内用図記号でおなじみだと思います。また、ここで採用したフォントは、パソコン（OS）の標準フォントや無料で使用できるライセンスのものから視認性の高いものを選びました。

このデザインポリシーによって、無駄な装飾にかかる時間と手間を省き、デザインやポスター制作などの経験がないスタッフでも迷うことなく作業することができるようになりました。加えて、レイアウトの目安となる「グリッドシステム」を使って、バランスのよい見やすいポスターを作れるようにもなりました。

●図書館ピクトを作ってみた

これら二つのポリシーを受けて、いろいろな場面で使えるよう、図書館（7号館）の建物をピクトグラム化した「図書館ピクト」を作成してピクトグラム活用の第一歩としました。

この図書館ピクトは、職場のパソコンにインストールされているMicrosoft PowerPointの図形描画機能を使用して職員が作成しました。そして、ポスターなどの掲示物だけでなく、利用案内、ガイダンスでの説明スライド、図書館で運用してい



▲図書館（7号館全景）



at your KUIS Library

▲図書館ピクト

る twitter や facebook のアイコンにも使用して、図書館のブランドイメージとしても活用し定着してきています。特に、透明なラベル用紙に図書館ピクトを印刷した衝突防止シールは、利用者が衝突する危険のある透明なガラス面に貼ることで、デザイン面と安全確保の両立を実現して利用者にも好評です。

●サインとアイデアを組み合わせてみた

サインを工夫して改善した事例として、新聞架をご紹介します。この新聞架は、学内の他部署で教材スタンドとして使われていたものが不要となったため、図書館で引き取ったものです。この写真にあるように、上段に当日の最新号をアクリル製のブックスタンドに一面の記事を見せる形で配架し、また曜日ごとに仕切った下段には直近1週間分を配架しています。利用者からは、いろいろな新聞の一面記事を同時に見比べることができると好評です。これも、使い方を考える中でブックスタンドに置くことや曜日分の仕切りを入れるアイデアが出てきたおかげです。

さらに、年に数回の新聞休刊日にはその旨を掲示する必要がありますが、利用者が気付かずに問い合わせに来ることもありました。そこで、普段最新号を配架しているブックスタンドの底にそれぞれ「休」「刊」「日」と貼っておき、休刊日当日にはそれを裏返して見えるように置くことにしました。これで利用者もすぐに気付き、職員も配架



▲通常日の新聞架



▲休刊日の新聞架

するかわりにブックスタンドを裏返すだけで、利便性の向上と作業の軽減を両立して解決することができました。

●まとめ

本稿は、2017年11月7日～9日にパシフィコ横浜にて開催された第19回図書館総合展のポスターセッションに「Library with Design and Ideas - アイデアで運用課題を乗り越える - 」と題して出展した、館内のサイン改善をはじめとする利用者へのサービス向上と業務の効率化についての発表の概要と、経緯や事例の一部をご紹介します。

ピクトの作成やポスターのデザインは、Illustrator など高度なデザイン用のソフトウェアを使わずに、Microsoft Office に含まれる Word や PowerPoint などの一般的なソフトウェアで十分に実践できるものばかりです。当館の職員にはデザインなどの専門家はひとりもいません。そのような職員でも、アイデアを出しつつ工夫することで、あまりお金をかけずにデザイン性のある快適な環境と利用者サービスを実現できるのではないかと考えています。

なお、図書館総合展のポスターセッションでは、PowerPoint などで作れる「図書館ピクトの作り方」、当館で使った参考情報や材料をご紹介します。「すぐに使えるアイデア集」をお配りしました。こちらは以下の URL から PDF ファイルでダウンロード可能ですので、ぜひご覧ください。

神田外語大学・附属図書館

■神田外語大学（学生数は2017年度）

創立：1987年

所在地：千葉県千葉市（幕張）

学部：外国語学部（学生数3,949人）

大学院：言語科学研究科（学生数42名）

■附属図書館（数値は2016年度）

蔵書数：179,189冊

年間貸出冊数：23,531冊

年間入館者数：162,812人

参考（ポスターセッション配布資料）

1) 「図書館ピクトの作り方」

https://kuis.libguides.com/1d.php?content_id=38449236

2) 「すぐに使えるアイデア集」

https://kuis.libguides.com/1d.php?content_id=38449383

（よしの ともよし：神田外語大学附属図書館）

[NDC 10 : 013.7 BSH : 1. PR 2. デザイン 3. 図書館管理]